

伝馬町通り 歩こう！駿府城下の東海道 路地裏散策



特集 静岡の演劇
～「演劇」という表現方法～
伽藍博物館主宰 佐藤剛史氏

ああ伝馬
のの町
時日

文・中村春夫氏（伝馬町在住）

Information

(財)静岡市文化振興財団インフォメーション

静岡市民文化会館
駿府城新能



伝馬町の思い出

文・中村春夫氏（伝馬町在住）

鑄物師町

伝馬町

私は明治最後の年に伝馬町で生まれました。もともと当時は江戸時代の町名がそのまま残っていたので、正確に言えば鑄物師町（いものしちょう）になります。旧東海道に沿った町並みにはまだ昔ながらの屋根の低い家も残っていて、道路はもちろん舗装などされていません。雨の日には高下駄をはき泥よけの爪皮を下駄の先にかぶせて学校に行きました。国道1号ができたのはずっと後のことですから、伝馬町の通りそのものが幹線道路で、たくさんの馬力（馬が引く荷車）が通っていました。馬は至るところに糞をしていきます。それで大人は馬糞通りと呼んでいました。たまに自動車を通ると子供たちには排気ガスが珍しく、みんな地面にはいつくばって思い切り吸い込んで、「いい匂いだな」と言い合ったものでした。



昭和14年もくざ屋の前。懐かしい形の車も見える。

いま国道沿いに日限（ひぎり）地藏と書かれた赤い提灯のかかっている小さなお堂がありますね。あれはもと国道のこちら側の安南寺の境内にあったもので、縁日にはお参りする人があげた線香の煙がもうもうと立ちこめて火事のような様子でした。また横田のおいべっさん（西宮神社）の夜も今とは比較にならない人出があって、その雑踏の中を町の旦那衆が芸者さんを連れて歩いていました。今と違って明け方まで賑わっていました。

思い出を書けばきりがありませんが、もう大人になってからのこと、昭和15年1月15日の静岡大火の日、私は友人と霧が峰にスキーに行っていました。するとラジオで「静岡が大火です、いま松坂屋が燃えています」といっているではありませんか。これは大変だと急いで帰ってきたのですが、もちろん間に合いません。家族の避難場所を書いた立て札が焼け跡に立っていました。一面焼け野原のなかに鉄筋コンクリートだった伝馬町小学校と松坂屋だけが残っていたのがとても印象的でした。

この大火の後、市民の生活をまるとして今のつつじ通りが作られたのです。そして戦後になると鑄物師町は伝馬町に合併されて由緒ある町名は消えました。旧東海道から分かれて久能山に通じているあの久能街道の分岐点を示す記念碑と、昔の鑄物師町の位置を示す小さな石碑だけが、かろうじて昔の様子を偲ばせてくれます。



昭和27年頃の伝馬町通り、おねりの風景。もくざ屋の看板が見える。



昭和27年静岡市伝馬町通り（谷津山方向）。駅からの安西行き路面電車が横切る。

ああの伝馬町の時日町



伝馬町通り 路地裏散策

春の陽気に足をのばせば、
いたる所に歴史あり、文化あり。
歩こう!駿府城下の東海道。



- a マップポイント
- ① ポイント紹介



Tenmachi-Street Rojiura Sansaku

鷹匠1丁目

① 西郷、山岡会見之地

慶応4年(1868)3月、徳川慶喜公追討のため東へ向かっていた官軍が駿府に到着した。一行は市内の民家に分かれて滞在したが、参謀西郷隆盛は、伝馬町の松崎源兵衛方(現在、再開発工事中の一角にあった。屋号・桐油屋)を宿舎としていた。そこへ幕臣山岡鉄太郎(鉄舟)が勝海舟の使者として訪れ、すでに大政奉還し謹慎していた徳川慶喜公の処分や江戸での戦争回避などをめぐり話し合った。この会見により、後の西郷、勝海舟両氏の会談が実現したのである。



a

② けやき通り

(平成7年度 静岡県都市景観賞受賞)



伝馬町

伝馬町は、古くから東海道の駅(宿)が置かれ、江戸時代には、本陣(大名など身分の高い人の宿・脇本陣が2軒)置かれたりして宿場町だった。現在は、繁華街の一面を占め、若者のファッションが街を彩っている。また、小学校やカルチャー教室、ホール、ギャラリーなどの多い文京区でもある。宿場町の面影は通りに点在する記念碑のみが伝えている。

静鉄新静岡駅



③ 上传馬本陣 脇本陣跡

④ 伝馬町の由来

伝馬とは通走用の馬のことで、この駿府伝馬宿にも馬や人足がそなえてあり、旅客や貨物の輸送の中継をするのが役目だった。幕府関係の旅行者には無料で馬や人足を提供したので、その代償として幕府から伝馬町新田、与一衛門新田といった土地が与えられていた。



トップセンター ビル 伝馬町

b 上井北興口

d

5J
FIVE-J

⑤ cielo azul -シエロ アスール-

若手雑貨アーティストによる手作り雑貨を扱うお店。クッションやキーホルダー、ポストカード、バッチなど、どうしても必要なモノではないけれど、時の経つのを忘れ、ついつい見入ってしまうのは、オーナーの確かな目と選ばれし雑貨が、キュートで気持ちを和ませる温かみのあるモノだからなのだろう。「わざわざ階段を上ってくださるお客様には、どこにでも売っているような雑貨ではなく、cielo azulにしかない手作りのモノたちを手にし、見てもらいたい」と、手作り雑貨にこだわる理由を教えてくれたのは、オーナーの青木絵里花さん。今では、全国から寄せられる雑貨アーティストの応募は月に30件以上にものぼるそうだ。仲介する者がいて初めて、若手アーティストの雑貨は自己満足の域から出て、オリジナリティあるモノへ、そしてお客様によってその良さを理解してもらい、育ててもらうことができるのだともオーナーが話してくれた。なるほど。

御幸町



また雑貨店の隣にはカフェがあるので、雑貨を買ってから、おいしいお茶を味わうこともできる。cielo azul=スペイン語で青空。あたたかな陽だまりのような空間でありたいとオーナーが願うこのお店は、ビル下に行き交う車や人々の喧騒がウソのようにゆったりとした時間が流れている。

@ ONE BLOOD

ワンブラッド

伝馬町のビルの一隅、赤・黄・緑のラスタ・カラーの看板がかけられ、周囲とは違った雰囲気興味を引かれる。ここは、市内でも珍しいレゲエショップ。レゲエの音源やグッズ、ネイティブアメリカン手作りのインディアンジュエリーを扱っており、さらにオーナーの小田切桂さんは「レゲエ博士」ともいえる存在。

レゲエといえば、南国の楽しいダンス音楽と思いがちだが、そのルーツをたどれば、ジャマイカの奴隷制度の中にある。

もちろん、奴隷制度は1838年に廃止され、音楽も様々な変遷をたどったが、現在でもレゲエの中には黒人文化や解放、さらに社会的、政治的、精神的なメッセージがこめられている。

小田切さんからは、そんなレゲエの話が聞け、また初心者にも分かりやすく音源を紹介してくれる。

その真のメッセージにジョン・レノンも脱帽したレゲエ。その魂にふれてみてはいかが？



伝馬町通り

a

@ 金剛山宝泰寺

南北朝時代の永徳元年(1381)、後醍醐天皇の皇子、無文元選禪師が宝泰寺を開山したと伝えられる。

江戸時代には朝鮮通信使の休息所に指定された。当時の境内面積は約1万㎡、現在のJR静岡駅までを含む大寺院で、およそ450人の通信使と警護する者250人、合わせて約700人が昼食を取り、長旅の疲れを癒した。宝泰寺に残る覚書を見ると、通信使の来日する2年前から、準備のために江戸から役人が来て、寺の畳替えや修繕、門前町一帯の整備をしたことや、普段は精進料理しか口にしないお寺で肉料理を作らねばならず、通信使の出発後には幕府から香をもらい受け、寺中に焚いて獣の臭い消しをしたことなど、興味深いエピソードが残されている。また、享保4年(1719)、第9回通信使の記録した日本紀行「海遊録」では、「寺の奇麗なること国中第一」と、特に庭園の様子を絶賛している。



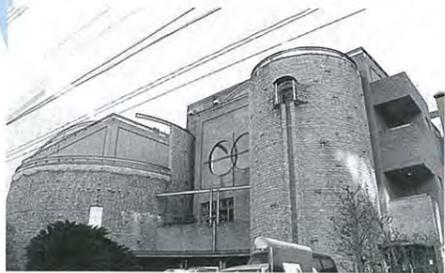
ただいまひなたぼっこ中...
ボカボカ

←至 御幸町



b 新光明寺別院・木造阿弥陀如来立像

新光明寺別院に安置されている「木造阿弥陀如来立像」は快慶作。国の重要文化財に指定されている。



e 下伝馬本陣 脇本陣跡



↑至 北街道

伝馬町

e



現在の宝泰寺は、安政の大地震、静岡大火、そして震災を経て再建されたものであるが、現在の庭園にも四季折々の美しい花が咲き、私たちの目を楽しませてくれる。また、わらべ地藏と呼ばれる40体の地藏尊が、庭のあちこちに微笑んでいる。じゃんけんや肩車、あっかんべーなどしているお地藏さんたちを眺めながら散策するのも楽しい。

ところで、明治21年9月15日、「静岡市制準備委員会」第1回の会合が宝泰寺で開催されたことは、あまり知られていない。しかし、静岡市は、ここで産声をあげたのである。

d

c サールナートホール

「スロウシネマ宣言」。

映画業界から最近、こんな言葉が広がっている。

派手な仕掛けで息もつかせぬ、いわゆるジェットコースタームービーとは別に、ひとつの作品をじっくりとあじわって観ようというのが「スロウシネマ」だ。

全世界で1年間に作られる映画は、4,000~6,000本にも及ぶ。サールナートホールでは、メディアに大きく取り上げられることはないけれど、人々の生活や気持ちが丁寧に描かれた作品を、日本も含めアジアのものを中心に、

年間100本以上上映している。

宝泰寺の壇信徒会館であるサールナートホールは、駅前の好立地条件をもと地域に役立てようと、平成7年に建てられた。日本の古典芸能の流れを見れば、神社仏閣と芸能の間には浅からぬ縁があるのだ。

貸し館は10か月~1か月前まで申し込みを受け付けており、また、地域の要望を積極的に取り入れた自主事業も行っている。

毎年秋に主催する合同リサイタル「エスプレッシーゴ」について、ホールのチーフプロデューサーである河合智揮さんは、「自分たちだけではサールナートホール出演はまだ...という演奏家でも、何人か集まればリサイタルを開けますよね。そうして力をつけたら次は独立すればいい。サールナートホールの245席をはじめの1歩として、やがては全国、そして世界へと羽ばたくアーティストが生まれてほしいですね。」と、目を細めた。

c

g 紺文シルクホール

「静岡の皆さんに、世間にある良いものをもっと見ていただきたい」。

きもの専門店「紺文」では、5階に専用ホールを設け、年3回、展示会を催し、和の文化から生まれた名品の数々を紹介している。

昭和58年、シルクホールの前身、紺文工芸館を設立。はじめは染絵や織物が中心だったが、平成元年に紺文シルクホールとしてオープンしてからは、工芸美術品なども扱うようになった。

展示品はどれも歴史と伝統のある美術品や文化財ばかりで、中には6年も依頼しつづけてやっと実現したものもあるとか。

展示会は、内容にもよるが、おおむね2月、5月、9月頃に開催。普段静岡ではなかなか見られない貴重な一品に、きっと出会えることだろう。



h

↑至 横町

伝馬町通り

g

h ドールハウス・クレイワーク「K-house」

3階の奥にある、ドールハウス作家、戸塚恵子さんのアトリエ。

普段は駿府楽市に出品しているほか、東京や大阪で行われるフェアなどにもたびたび参加している。

作品の多くは昭和30年代の設定で作られている。木造瓦屋根の家屋、2階の物干し場、夏は風鈴、冬は火鉢といった具合に、ノスタルジックな小物たちがアトリエの一角を占め、思い出のつまった宝箱をひっくり返したような気分で、いつまでも眺めていたくなる。

作成の上で最も苦勞するのは資料探しだ。写真は今ほど豊富ではなく、あったとしてもほとんどは白黒なので、色は想像するしかない。

さらに、丸みをつけたり、ほんの少し大きめに作った小物を添えたりすることで、ほのぼのとした可愛らしさ、あたたかさあふれた作品ができあがる。

この伝馬町通りも、なかなかの題材であるのだとか。旧東海道の町並みには、今も昭和の匂いが残っている。



伝馬町通りの竹内文具店(P)がモデルの作品

f

f 静岡繊維工業館

木造・瓦屋根だが、洋風の趣もあるこの建物は昭和25年頃、鷹匠にあった繊維組合の建物を解体してこの場所に建てたものだそうだ。

当時は、繊維組合のほか、設計会社・デザイン会社・写真家の方が使っていて、一時は管理人さんも家族で住んでいた。

現在は、設計事務所が2つとステンドグラス教室が入っているが、中も昔のままの本造・漆喰、ガラスの入った欄間や白熱灯など何ともいえない懐かしさと落ち着きを感じさせてくれる。

夜になると教室のステンドグラスがまほうと光る。この建物にとってもマッチした光景だ。



i

↑至 国道第一

i 珠賀美神社

珠賀美神社は、慶長19年(1614)徳川幕府譜代の家臣であった板倉伊賀守(京都所司代)勝重が創建した。

もとは宝泰寺門前に宝泰寺の守護神として祀られた牛頭天王社で、「天王様」と称えられていた。

境内にある久能山東照宮の石灯籠は、その怪力無双から「鬼彦」と呼ばれた男が、久能山から駿府の城

まで石灯籠を運ばば、くれるというので、天秤棒で担いで来たが、社前までくると、天秤棒が折れてしまったため、珠賀美神社に奉納したという言い伝えがある。現在は、用宗海岸の石をお払いして本殿のまわりに置く「石引」や夏祭り、輪くぐりなどの年間を通して行事が行われている。



栄町

h アミイチビルの中には、面白いカルチャースポットが隠れていた!



h ENGLISH BOX

イングリッシュボックス

「静岡バイリンガル10万人構想」という壮大な目標をかかげるのは、英語学校「ENGLISH BOX」代表の福島範昌さん。

これは、英語でビジネスや学問ができ、日本文化も語れるバイリンガルを10年間で10万人(静岡県人口の3%)育て、その成果を静岡という都市に還元しようというもの。現在も生徒の中には大道芸などで英語を活かしたボランティアをしている人たちがいる。

さらに福島さんは「日本には、相手を察する文化があるが、外国人はどんなことにも「Why」と追求してくる。自分の意見、気持ちをしっかりと伝える英語力、そして日本語力も必要です。英語は目的でなく、会話の手段です。」と語る。

英語力だけでなく、幅広い知識、情報分析力、コミュニケーション術を身につけたグローバル社会に通用する人材の育成を目指し、プログラムも多彩。もちろん入門コースもあるからご安心を。

看板の三つの丸は「ホップ・ステップ・ジャンプ、世界に飛び出せ」の意味だそうだ。



h エコールドゥクラージュ



文部科学省認定「色彩検定」には、設立時から関わっているカラーコーディネイト教室の草分け的存在。

現在は、色彩検定取得のほか、色彩心理カウンセラー、フレグランスアドバイザー、メイクアップと教室の幅を広げている。

受講生は高校生から60代と幅広いが、特にOL、主婦のステップアップ、再就職には一役かっている。



また、老人ホームでは、メイクアップボランティアを行い、お年寄りから大変喜ばれているそうだ。

人は身だしなみを整えること、メイクをすること、自分を磨くことで元気になっていく。学校名の「クラージュ」はフランス語で「勇気」、新しい自分を見つける後押しをする。



伝馬町にアトリエを構え、日々の制作活動に励み、作品作りを楽しんでいるアート研究所(A・Lab)は、楽しいアートを志すメンバー17名で活動している。

メンバーは、普段広告会社や印刷会社などで働いている。職場ではなかなか出せない「自分」を発揮できるこの空間では、個々の作品をつくるのは勿論、メンバーそれぞれの得意分野を総合し、意見を出し合いながら、制作側も見る側も楽しむことができる作品を作り上げている。

昨年(平成14年)の清水七夕祭では、アート部門を依頼され、総合プロデュースを行った。宇宙人をメインに楽しめるアートを企画したお祭りでは、お客さんと距離を置かず大成功に終わった。A・Labは制作から企画・運営まで行うスペシャル集団だ。

今年の4月で5年目を迎え、今後の目標を聞くと、代表の中安由武さんは気負いなく「長く続けること」と言う。仕事・ライフスタイルの違う者が集まり、普段は統一感が無いが、目標ができた時の結束力・集中力はお見事。お祭り好きが集まり人と触れ合うことが好きな集団だからこそできることだとか。今後も笑い声の多いアートを目指し、グループでできるものを中心に制作していくそうだ。



②もぐさ屋

伝馬町通りに静かに佇む古い建物。入口正面に掲げられた「艾」の看板に趣がある。それもそのはず、その看板は静岡市の第6回都市景観大賞優秀賞を受賞したそうだ。そして登録商標のⓂは、某有名百貨店の次に登録されたものとか。建物は何度か建直しを経たもののその都度以前と同じ姿に建てられた。30年ほど前には、テレビドラマのセットの見本にもなったそうだ。その台本を見せてもらうと今活躍中の大スターの名もあった。

ところで、もぐさの原料が蓬ということを知っているだろうか。ご主人の小山千枝さんが作り方を説明してくれた。まず、蓬の葉を乾燥させて石臼で挽く。それをふるいにかけると不用な葉肉、葉脈が下へ落ちもぐさになるそうだ。出来上がったものを見ると、灰色がかかったスポンジのよう。触るとふわふわと柔らかい。それを細長く伸ばし、薄い紙に巻いたものを切り分ける。使うときはその小分けにしたものを肌に置いて火をつけるのだ。熱いのは最後の瞬間だけと言うがやはり熱そう。買い求めるのは治療だけでなく、スポーツ選手にも愛用者がいるとか。

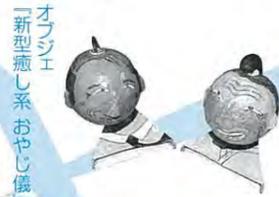
最近では、東洋医学がちょっとしたブーム。静かにお灸をすえて、のんびり体調を整えるのも悪くなさそうだ。



③花陽院門前町

鷹匠二丁目にある玉桂山華陽院の門前にあった町。華陽院は、元來智源院といい、徳川家康公が今川氏の人質時代勉学に通った寺。

後年、家康公の外祖母源応尼の法名にちなみ華陽院として改称。源応尼の墓と並び家康公五女市姫の墓もある。



「新形癒し系おやじ儀」

④ 鑄物師町

今川時代ここに鑄物師たちが住んでいた。



⑤ ビリヤード ポニー

看板に「SINCE 1957」とある、つまり、プールバーなどが流行るずっとずっと前から玉突きたちが集まった市内ビリヤード場の草分け。

小学校が近いので、看板を眺めて通学した児童たちが、大人になると玉つきに来てくれるそうだ。



⑥ 土手熊

葬具店「土手熊」の大きな看板。「土」に「熊」が付いている。なぜ???意を決して尋ねてみることにした。

「土手熊」の初代は前田熊蔵という天保生まれの人だった。当時は土手通りに住んでいたので、「土手通りの熊蔵の意味だろう」と店のご主人は言う。問題の「熊」だが、千社詣(地方の神社・寺院を千社巡拝すること)の際に、氏名・生国・店名などを書いて社殿に貼り付ける千社札にこの文字が使われていて、「土」を「つち」と読ませないためか、デザイン的な理由だろうということだ。

お店は戦後、横田町へ越してきたが、「土手熊」の名はそのまま使っている。街は、いたるところに歴史ありである。



見わたせば街、いたるところに歴史あり...

「街かど」の一句



⑦ MUSIC BARN

バンドをやっている人たちが「MUSIC BARN」の名前をよく耳にする。ギターとアンプを扱う楽器店なのだから当然といえば当然なのだが、楽器を外へ出さず店で修理してくれるのは、市内でもここだけ、また、楽器の改造、製作もしてくれるので、バンドマンたちにはありがたいお店であることまちがいない。

店の中は、所狭しとギターが並び、中には1930年代、西部劇がはやった頃、アメリカのシンパソニクスという百貨店が通販で売り出したカーボーイギターや1960年代までに作られたヴィンテージギター、また、マザーメイベルカーター(カントリーミュージックの元祖とも言える音楽家)が使っていたオートハープもある。このハープは、ツアーを組んで見に行く人たちもいる貴重なものだそうで、店内は街中の小さな楽器博物館のようでもある。



「少し変わったギターが好き」という店長の渡辺文彦さんは、さぞやギター通のバンドマンであったかと思わせるが、実は、もと無線小僧。ギターも、そのメカニズムに興味を覚え、今では、ギターエンジニアスクールや海外での指導を行っているほどだ。

とにかく、ギター好き、楽器好きの人たちには、たまらないお店だろうが、そうでない人にも一見の価値がありそうだ。

⑧ Mixed Media

日出町に、昨年2月オープンしたアートスペース。アートといっても昨今は、デザイン、ファッション、建築、映像、パフォーマンスと境界がなく、ミクストメディアでも様々な種類の作品をノンジャンルで紹介している。

ディレクターの大森久美さんは「生活に根ざしたものの」という言い方をよくされる。ミクストメディアがノンジャンルの作品の中でもコンテンポラリーアート、つまり「私達が生き、同時代に生まれる作品」にこだわって紹介しているのは、「日常生活の中で感じるアートを提案したい」という思いからだ。確かに評価の定まらないコンテンポラリーアートは紹介することにも観ることに冒険がある。しかし、現在進行形で生まれるアートであるからこそ、そこから私たちの生きている時代や私たちの姿、日常を発見し、感じあうことができるのではないだろうか。



ミクストメディアでは、若手作家や学生のサポートをする他、観る人たちに作品をより身近に感じてもらうため、展示期間中に作家を招いてのギャラリートークを行ったり、小学校で「自分の夢を陶器として表現する」ワークショップ『夢みる形』を開いたり、アートがより身近に地域に根付いていくよう活動している。

そして、このスペースが「アーティストと鑑賞者を結び、新たな情報発信基地」となることを目指している。



ミクストメディアでは、若手作家や学生のサポートをする他、観る人たちに作品をより身近に感じてもらうため、展示期間中に作家を招いてのギャラリートークを行ったり、小学校で「自分の夢を陶器として表現する」ワークショップ『夢みる形』を開いたり、アートがより身近に地域に根付いていくよう活動している。

そして、このスペースが「アーティストと鑑賞者を結び、新たな情報発信基地」となることを目指している。

⑨ 久能街道の話

「久能山東照宮道」の碑が立っている。ここは、かつて東海道から南に分かれ、久能山麓に通じる久能街道が始まった場所だ。久能山は眼下に駿河湾を、遠くに伊豆半島を望み、頂には「権現様」徳川家康公を祀る久能山東照宮がある。参勤交代の大名たちはこの碑がある所から東海道を離れ、久能山に参拝した。

さらに、時を遡って、この久能街道は古代から塩を始めとする海産物を駿府に運ぶ役目を果たしていた。

塩は、明治末期にその専売制がしかれるまでは大切な商品で、農村の人々は、塩を売りこくおばさんたちをシオリン(塩売りどん)と呼び親しんだという。そして、この久能街道には、もう一つ不思議な役割があった。

(社)中部建設協会発行の「東海道駿府城下町(上)」によれば、久能山の麓の「安居神社」

や久能街道沿いの「八幡神社」は古くから駿府の浅間神社と深い係りがあり、「八幡神社を経由して安居神社へと通じる久能街道が浅間神社と海を結ぶ重要な役割を担っていたのでは」として、次のように記している。

「久能街道は、海からの神を迎えるための神聖な道であった可能性が高い。そして、久能山に東照宮が置かれるよりはるか昔から、久能山そのものが海から寄り来る神の目印として重要な意味を持っていたと考えられる。だからこそ、久能寺という大きな寺が建立され、観音菩薩の霊場として広く知られたのである。」

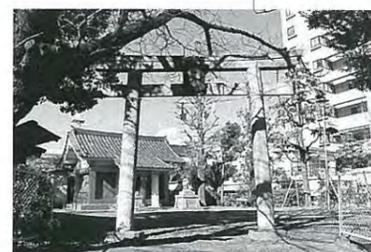
久能街道は、海からの神の通い来る路。何と浪漫に満ちて雄大な話であるのだろう。



横田町

ついで通りのあたりに来ると、繁華街の華やかさはまったく消えてしまう。横田町には、古くから住んでいる人たちが多く、お店を訪ねると、どれも100年ほど続いているという。手作りを守り、どこまで慣れしやかで昔ながらの生活を感じさせる街。この街には、江戸時代、東海道から府中に入る東の木戸「東見付」が置かれていた。

⑩ 三之御前社



伝馬町通り

伝馬町

横田町

日出町

国道1号

⑪ 竹内文具店

戦後、間もなく開いた文具店。「K-house」戸塚恵子さん(P6)の作品のモデルにもなった。



⑥ヨコタッキーフライドチキン 曾根青果店

ガラス戸に「横田生まれのヨコタッキーフライドチキン」の張り紙。

「???いったいどんなフライドチキンなのか?正体を確かめるべく、店に足を踏み入れると奥にお惣菜コーナーがあり、タレがテカッとひかる骨付きチキンが...

この地域密着のフライドチキン、名前は、ご主人のシャレだそうだが、味は揚げたチキンに甘辛の醤油タレがかかってなかなかおいしく、売れ行きもいいそうだ。

青果店だが、手作りの惣菜・お弁当もあり、漬物も奥さんが漬けたものだそうだ。



タレがテカッ...

⑧西宮神社 おいべっさんのお祭り 丸一屋えんぎ店

「横田のおいべっさん」として親しまれている西宮神社は伝馬町通り沿いにたずむ。

兵庫の西宮本宮から勧請・分祀した西宮神社は、戦中焼失したため、昭和32年に関西から宮大工を呼び、再建された。梁の海老紅梁や千鳥屋根の鬼の毛通しなどは宮大工にしかできない戦前の技術である。また、一般の神社同様、本殿と拝殿に分かれており本殿には恵比寿様・大黒様が祀られている。

毎年10月19日の恵比寿講の縁日には「おえびすさん」がなまり「おいべっさん」と呼ばれるお祭りが開催される。夜は商売繁昌・一本槍の祈願の人々が伝馬町通りの道路一杯にうごめき、道路の両側に



大福張など縁起の良いものをぶら下げる。特にぶら下げる物は決まっていなくていい。また、お店ではダルマや神壇なども手がけており、「お祭り」で見るとほとんどの売物はここで作られているという。

縁起担ぎに購入してみたいかでしょうか。

丸一屋えんぎ店

⑦横田郵便局

戦前の三等郵便局から戦後もなく特定郵便局に指定された、市内でも屈指の歴史ある郵便局のひとつ。

入って右手の壁は全面が掲示板になっており、郵政関係や国の行政にまつわる展示や、東海道400年祭にちなんだ展示など地域の情報発信にも活用している。申請すれば、個人やグループで作品発表の場として借りることも可能(営利目的等を除く)。



静鉄 音羽町駅

横田局



⑨風景印

市内9か所の各局では、その土地に縁の深い絵柄が風景印に採用されている。横田郵便局は、きよみずさんのデザイン。郵便を直接局へ持ち込むか、50円以上の切手を購入すれば、その場で押してもらえらる。

⑩手づくり厨房 魅味

赤や緑や黄色の看板が目を引く「手作り厨房 魅味」。ここは中華専門のお惣菜屋さん。看板メニューのギョーザ・シューマイ・肉まんのほか、お弁当や惣菜も種類が豊富。すべて手作りでお手頃価格なのがとてうれしい。



⑪輸入テラコッタのお店 magnolia-マグノリア-

テラコッタは、イタリア語で素焼土器のこと。撥水性と通気性にすぐれ、肌色や褐色をした温かみのある器は割れても自然に帰るそうだ。

ここ、「magnolia」は、2月にオープンしたばかりだが、店内にイタリア、スペイン、トルコ、チュニジア等様々な国のテラコッタが並び、国によって色や形が違っているのが楽しい。

「静岡は気候がよいので、一年中花を育てることが出来ます。植木鉢もインテリアと考えてもらえれば…」とオーナーの青木芽久美さんは語る。このお店を始める前は建設の現場監督をしていたという青木さんは、華奢だが、健康的な姿と名前が自然を育てるこの仕事にピッタリだ。

店名の「magnolia」はモクレンの花のことで、宮沢賢治を大好きなお母様が、賢治の詩からとったもの。花言葉は「自然への愛」だそうだ。



春日1丁目 ⑫静浜屋酒店



目印は大きな人形。ビルはおいしいうすかア

横田町

伝馬町通り

丸一屋えんぎ店

⑬横田町 ⑭地蔵堂と見付の話

横田町三区公民館の前には地蔵堂が祭られている。一昔前は、お年寄りたちがご詠歌を歌ってお参りし、毎月23日には、お団子を分けていたそう。現在も、町内の人たちがお参りし、7月23日には地蔵堂のお祭りが行われ、信仰が受けつがれている。

お地蔵様は、その慈悲深きゆえ、古代から庶民に最も親しまれている仏様である。お地蔵様は、地獄の入り口におられ、この世で様々な悪行を行った人間でも、生きている間にほんの少しの信心を示していれば助けてくれるという。庶民の間には、お地蔵様は、あの世とこの世の境にいて、人々を救ってくれるという信仰が広がっていた。

ところで、横田町の地蔵堂があるあたりには、江戸時代、「東見付」が置かれていた。「東見付」は東海道から府中に入る東の木戸で、府中防衛のため、番兵がおかれ、道路の左右に石垣で櫓形の土手が築かれていた。

つまり、この場所は府中の出入口、境にあたり、その境に地蔵堂が祭られていることはなるほどうなづける。

さて、「東見付」が横田に置かれたのに対し、「西見付」は新通川越町に置かれていた。江戸時代、旅人が西から駿府に入ろうとすると、勇壮な富士山を見ることができた。そして、東から駿府に入る旅人にも、女富士または小富士と呼ばれた藤枝の「高根山」が見えたのである。『駿河記』には、この高根山が見える場所に東見付を設置し、富士山が見える場所に西見付を設置したと記されている。

徳川家康公は、この駿府の町づくりに富士山という最高の景観を生かし、東西の富士に守られた町としたのではないだろうか。

昭和7年顕光院(研屋町)発行の「駿河一國百地蔵菩薩御詠歌」



⑮静岡日本語教育センター

もともと中国との友好交流の中で育ててきた静岡中国語講座が母体となり、やがて今度は中国からの帰国者や研修生、留学生に日本語を教えるようになったことから、昭和63年、静岡日本語教育センターを設立。進学を重視したカリキュラムで、主として県内の大学、短大、各種専門学校に学生を送り出し、また、様々な分野への就職等、日本に滞在する多くの外国人の将来を開き、これらの実績から、平成14年には学校法人格を取得している。

静岡アジア言語センターも擁し、ベトナム語、ロシア語、韓国語の教室を開講。入門、初級、中級などに分かれていますので、自分にあったコースを選ぶことができます。



⑯日の出屋菓子舗

横田町のはずれ、国道に面した場所にある和菓子屋さん。

一昔前まで、ここは市街地のはずれで国道のあたりは松林だったという。

そんな場所にあるせいか、旅人が休む町はずれの茶屋を想像させる。懐かしいにおいのお店。

最近では珍しい仏様のお供物もあり、手作りのお菓子も種類が豊富、素朴な味に心が和む。



たかが演劇、されど演劇...

役者は、3日やったら辞められないというけれど、ここ、静岡にも演劇に魅せられた人たちが様々な活動を繰り広げている。

日出町は、三之御前社の近くに「静岡県演劇協会」機関紙編集部がある。

この静岡県演劇協会とは、県内で演劇活動をする人たちが「それぞれの連絡を保ち、地域の演劇文化向上と発展を図る」ため、昭和55年に発足され、現在、事務局長には静岡市内で演劇活動をしてこられた堀池高彰さん、機関紙編集担当には市内の地域劇団「らせん劇場」を主宰する都築はじめさんがあたっている。

協会の活動は、県芸術祭演劇部門の審査や協会の機関紙「しずおかの演劇」の発行だが、お二人は「もっと外へ向けて活動しよう」と昨年2つのワークショップを企画した。

1つは、日本劇団協議会主催のワークショップを市内に招いた「RADAイン静岡2002」。「RADA」(英国王立演劇芸術学校)から講師を迎え、現在、演劇活動や指導をしている人たちを対象としたこのワークショップは、演劇の基本を学ぶ機会の少ない静岡では大変貴重な場となった。

また、中学生のためのコミュニケーションワークショップ「演劇体験教室」は、劇団「たんぼぼ」の協力を得て、協会が主催し、2泊3日の合宿形式で行われた。参加した子供たちの感想文には、子供たちが「男だから」、「人見知りだから」、「中3だけど」などのこだわりを持ちながらもレッスンや夜中のおしゃべりなどのコミュニケーションを通して、生のままのキラキラした自分を発見していく様子が伺える。

協会では「こうしたワークショップの他、今年は、戯曲のワークショップも開いていきたい」ということだ。

さて、演劇について話を伺うと、演劇は、まこと、様々な要素と人間が集まって創られ、時間と労力を要することを知らされる。戯曲を用意することに始まり、役者が演技し、照明、音響、大道具、小道具、衣装などが演出に合わせて準備される。もちろん、広報活動や稽古日程の調整など諸事もある。静岡市内で演劇活動をしている人たちはほとんどが仕事を持ち、仕事以外の時間を工面して活動しているわけだから、演劇には、まず何より「タウ」であることが要求されるのではないかと思ってしまう。

しかし、長く演劇を続けている人にその理由を尋ねると、答えは皆あいまいで、都築さんにいたっては、はっきり「分からない」と答える。「分からない」のに続ける...、まるで恋愛、しかも片思いのようだ。...演劇という女神はそんなにも美しいのだろうか？



演劇協会機関紙「しずおかの演劇」

演劇の魅力について堀池さんは「自分を見つめなおすことができる」と言い、都築さんは「人との共同作業、お客さんとのコミュニケーション、そして言葉」の3点を挙げた。

人と人との共同作業は、いやおうなく自分を見つめさせ、様々な過程を経て出来上がった舞台は、それを創ってきた人たちのエネルギーが絡みあい、本番の緊張、お客の反応がさらに新しいエネルギーを生むライブ空間となる。都築さんは「台詞を話すのではなく、言葉の間に埋める」と言うが、台詞はその場のイメージや役の感情を孕んで、立体的な異空間を作り上げていく。

静岡市内には、現在30程の演劇団体があり、多い時は毎週のようにどこかの劇場やアトリエで公演が行なわれている。一度足を運んでみることをお勧めするが、なま物なので、あつた時の感動やショックは長く後を引くかもしれない。



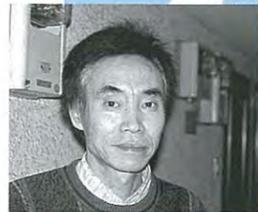
都築さん主宰「らせん劇場」は今年で34年目をむかえる。



昭和23年創立 市内最古の劇団「静芸」



静岡県演劇協会 事務局長 堀池高彰さん



静岡県演劇協会 機関紙編集担当 都築はじめさん

静岡県演劇協会ホームページ <http://plaza.across.or.jp/~h-taka/>



～中学生のためのコミュニケーションワークショップ～「演劇体験教室」



「演劇」という表現方法

伽藍博物堂主宰 佐藤剛史氏

人間は自分の感じたものを表現したいという欲求を持っています。その表現方法の一つに、演劇があります。

「演劇」と聞くと、皆さんはどんなものを想像するでしょうか？四季のミュージカル、三谷幸喜のシットコム、宝塚、劇団ひまわり...ここ、静岡にもいろんな劇団があり、活動しています。しかし、それらは音楽、絵画、文章、などの表現方法と比べて、どちらかというとマイナーな(特殊な)部類に感じられるでしょう。でも、私はもっと身近なものだと思えます。

今、私達は「より身近に、気軽に演劇に触れられる場を」と考えて、いろんな事を試しています。短編舞台や即興芝居をたくさん創ってみたり、毎月のように舞台やライブを企画してみたり。普段の練習メニューを路上で披露してみたり、ライブで歌うミュージシャンのバックでプロモーションビデオのようなパフォーマンスをしたり、幼稚園に行ったり...「演劇は総合芸術だ」と偉そうに言うのではなく、逆に「何でもありだ」



昨年のストリートフェスティバルにも参加、様々な表現に挑戦している「伽藍博物堂」

から他のいろんな表現方法に利用することも出来る、と考えています。そうすることで、他分野の表現者や観客とも、新しい可能性を体験できるのです。

最近話題になっている斎藤孝さんの「声に出して読みたい日本語」「自然体のつくり方」などの著書は、演劇と何の関係もない人でも興味を持って読むことが出来ます。それは、人が「言葉を声に出したい」「無理の無い体で動きたい」という欲求を持っているからです。そんな根源的な欲求から出発しているはずの演劇(芝居・パフォーマンス)をもっと多くの人に観劇・体験・利用して欲しいと思っています。まずは身近なものから。のぞきに来てみませんか？

演劇を観に行こう！

2003年秋

演劇フェスティバルをサールナートホールを中心に各所で開催。現在、参加劇団も募集中。様々な演劇に出会えるこの機会に乞うご期待!! サールナートホールでは、10月11日(土)・12日(日)・13日(祝)に開催予定。

静岡県演劇協会後援
お問い合わせ 070-5447-7358 (堀池)

演劇情報ならコレ!

静岡舞台芸術公演情報
静岡県生活・文化部文化政策室発行

文字通り県内の「舞台芸術公演情報」が満載された情報誌。2月・6月・10月に発行され、公演スケジュールの他、劇団紹介などの記事も充実。

県の行政機関、図書館など市内の文化施設で入手でき、編集に間に合わなかった公演情報もホームページでチェックできる。



<http://www.pref.shizuoka.jp/theatre>

静岡市民文化会館

静岡市制90周年を記念して、昭和53年11月3日(文化の日)に開館しました。全国でもトップクラスの規模と設備を備えている大ホール(1,968席)をはじめ、中ホール(1,170席)大会議室、6つの小会議室、3つの展示場があり、コンサート、式典、会議、講演会、展覧会等さまざまな催し物で利用できます。



アクセス

静岡駅北口より
徒歩 約25分 タクシー 約5分

静岡バスにて「市民文化会館入口」下車(駅より約7分)
静岡駅前 2番線 竜爪山線・北街道線
東部団地線・子供病院線

駐車場有り(地下駐車場) 237台
駐車時間 午前8時30分～午後10時

お問い合わせ
〒420-0856 静岡市駿府町2番90号
静岡市民文化会館 Tel.054-251-3751



と き:平成15年5月24日(土) 開場午後4時30分 開演午後5時30分

と ころ:駿府公園東御門前広場特設能舞台
(雨天会場:静岡市民文化会館中ホール)

鑑賞券:一般6,000円(税込) 学生(高校生以下)2,000円(税込)

※全席指定。ただし雨天会場で実施の場合は、鑑賞券裏面に指定の座席となります。

※フリーゾーン…中正面1列～中正面10列は学生席(20席まで)が自由に選べるフリーゾーンです。一般鑑賞席との連席も可能です。

チケット取扱い

●(財)静岡市文化振興財団(Tel.054-255-4746)

(初日の販売については、市役所静岡総合事務所新館3階に臨時販売所を設けます。)

●静岡音楽館AOI(Tel.054-251-2200)で販売します。

※初日の販売は、お一人様5枚まで

※市外の方は、4月1日(火)～4月15日(火)(当日必着)まで郵便で予約を受け付けます。

(希望者多数の場合は抽選となります。)

官製ハガキ(お一人1枚限り)に、〒・住所・氏名・電話番号・希望枚数(5枚まで)を記入して、(財)静岡市文化振興財団(〒420-0031 呉服町2-1-1札の辻ビル6階)へどうぞ。

※電話でのお申込みは、4月16日(水)以降残券がある場合に受け付けます。



新「静岡市」誕生記念事業

番組

能 「清経」 宝生英照(宝生流)

狂言 「茶壺」 山本東次郎(大蔵流)

能 「藤」 前田晴啓(宝生流)

主催:静岡市

共催:静岡県能楽鑑賞会

制作:(財)静岡市文化振興財団

お問い合わせ (財)静岡市文化振興財団 Tel.054-255-4746

4月15日(火)午前9時前売開始

TAKIGI NOH IN SUMPU CASTLE

From Editor

編集後記

◆駿府の重要なポイントだったこの街には随所に歴史が見え隠れしていました。

◆駅に近いので寄り道に便利。繁華街に近い華やかなスポットから手作りの多い生活スポットへの散歩もおすすめ。

◆皆様がお持ちの情報をもとに取材をしたいと思えます。ご意見・ご感想・情報をドシドシお寄せください。

参考文献

- 『町名の由来』 飯塚伝太郎著 長倉智恵雄補筆 静岡新聞社
- 『東海道駿府城下町(上)(下)』 監修 建設省静岡国道工事事務所 編集発行(社)中部建設協会 静岡支所
- 『ふるさと百話10』 静岡新聞社
- 『海遊録 朝鮮通信使の日本紀行』 中継翰著 姜在彦訳注 平凡社
- 『静岡の文化』69号 (財)静岡県文化財団

写真提供

海野幸正氏(静岡県写真協会会長)
(株)天野屋繁田商店
もぐさ屋小山商店
静岡県演劇協会
伽藍博物堂 劇団「静芸」
大塚博氏

静岡文化情報「街かど」第21号

●発行(年2回)
平成15年3月
●編集・発行
(財)静岡市文化振興財団
〒420-0031
静岡市呉服町二丁目1-1 札の辻ビル6階
TEL.054-255-4746/FAX.054-653-3501
E-mail:bunshin@chabashira.co.jp
http://www.chabashira.co.jp/~bunshin/

●印刷

株式会社パビア中央
静岡市小鹿一丁目62番18号



演劇・音楽・古典芸能から
映画まで静岡に新しい生命の風が吹く

●貸しホール受付中 (12ヶ月前より受け付けます)

静岡駅前の便利な小ホール。専門のスタッフがご相談させていただきます。

JR静岡駅より徒歩5分/松坂屋立駐東30m/宝泰寺前

サールナートホール

TEL:054-273-7450

静岡競輪が
ますます
面白い!!

好評
発売中

3夢 連単

料金のご案内

入館料

■駿府工芸館

大人(満15歳以上)・・・500円
 小人(小・中学生)・・・300円
【団体】(20人以上)
 大人400円/小人200円

■東海道歴史体験ホール

大人(満15歳以上)・・・150円
 小人(小・中学生)・・・100円
【団体】(20人以上)
 大人120円/小人70円

■両館共通

大人(満15歳以上)・・・600円
 小人(小・中学生)・・・350円
【団体】(20人以上)
 大人500円/小人250円

■似顔絵屋(1回)・・・200円

体験工房

※この他にも、自由体験コースがあります。(材料費別)

■セット体験コース(2時間以内、材料費込み)

竹千筋細工(虫籠)・・・1,500円
 (花器)・・・1,900円
 指物(六角小箱)・・・2,000円
 漆器(はし)・・・1,700円
 和染(ハンカチ)・・・900円
 (のれん)・・・1,900円

木製履物(ミニ下駄)・・・900円
 陶芸(手ひねり)・・・1,800円
 (絵付け/湯のみ)・・・1,200円
 (絵付け/皿)・・・1,200円
 レーザー加工(キーホルダー)・・・900円
 サンドブラスト(コップ)・・・900円

■カルチャー教室(3ヶ月10回程度)

竹千筋細工 和 染
 指 物 陶 芸
 挽 物 サンドブラスト
 蒔 絵 ガラス工芸
 漆 器
 各教室20,000円(材料費込み)

駐車場

普通自動車・・・400円
 (軽四輪車等を含む)

交通のご案内

■静岡バイパス利用

丸子IC出口東へ200m

■東名高速道路利用

静岡ICから約7km、所要時間約15分
 焼津ICから約15km、所要時間約30分

■バス利用

JR静岡駅北口の中部国道線(6番線)
 で約30分、吐月峠入口下車、徒歩5分

SUMPU
TAKUMI SHUKU



駿府
匠宿
体験工房

所在地 / 静岡市丸子3240-1
 敷地面積 / 約6,500m²
 建物総面積 / 約3,600m²
 開場時間 / 午前9時～午後5時(7月20日～8月31日の間は午後6時まで)
 (創作体験の受付は終業時間1時間前まで)
 休 場 日 / 水曜日(祝日を除く)年末年始(12月30日～1月1日)
 駐 車 場 / 乗用車約300台収容可能
 お問い合わせ先 代表 **054(256)1521**



おいでよ!ここはいつでも、
健康な楽園!!



350台 開館時間 / 10:00～22:00(日・祝日のみ20:00まで)
 休 館 日 / 毎週火曜日 ※業務清掃工場の法定点検中は約2週間の閉館となります。
 〒420-0905 静岡市南沼上1379-1 TEL.054-263-3456
交通アクセス
車利用
 東名静岡ICから約12km(約30分)
 ※SBS通りを東へ直進、行き止まりにあるカーブを曲がり長沼大橋を越え、流通センター通りから左折してください。
 東名清水ICから約12km(約30分) JR静岡駅前から約8km(約20分)
 静岡バイパス千代田上土ICから約2km(約5分)
バス利用
 JR静岡駅北口 こども病院線(2番線)にて東車、流通センター入口で下車。
 (流通センター入口より無料シャトルバス運行)
東静岡駅北口より無料シャトルバス 東静岡駅北口より無料シャトルバス運行
 東静岡駅発 9:20 10:20 12:20 14:20 16:20 18:20

区分	大人	子供 3歳以上 中学生まで
全日使用券	1,200円	600円
夜間使用券(18時以降)	600円	300円
回数券(6回分)	6,000円	3,000円
団体使用券(15人以上)	800円	400円
3月使用券	9,000円	4,500円
年間使用券	25,000円(60歳以上)	12,500円

「ゆらら」は、隣接の清掃工場の余熱を利用した県内初のエネルギー循環型の温浴施設です。